

教科	道徳	単元名	すれちがい
----	----	-----	-------

本時のねらい

二人のすれ違いを通して、相手の立場や意見を尊重することの大切さを理解し、相手の立場に立って考え、広い心で接しようとする態度を養う。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・ICTを活用したアンケートをもとに、本時の課題を児童の身近な問題として捉えさせる。
- ・ICTを活用し、話し合いの活性化をねらい、教材をあえて二つに分け、別々に提示する。
- ・ICTを活用し、自分の立場を明確にして、意見を比較しながら話し合いに参加させる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末 (iPad)
- ・電子黒板
- ・Apple TV
- ・授業支援アプリ(ロイロノート)
- ・Google フォーム
- ・AI テキストマイニング
- ・ジャムボード

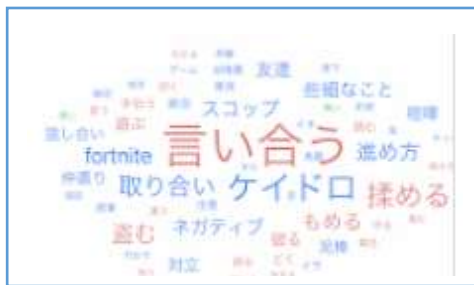
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (3分)	・学級のアンケート結果から、友だちとのすれ違いの経験について振り返る。	・google フォームを活用し、児童の実態を数値化して提示する。記述式の回答は、AI テキストマイニングを使って表す。
展開 (35分)	<p>「よし子」「えり子」の日記を片方だけ読み、それぞれの立場に立って、意見を交互に出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">二人になりきって考えたとき、感じたことや相手にいいたいことは何ですか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・立場によって付箋の位置を変え、ジャムボードの座標軸に貼らせる。 ・ノートに意見を詳しく書く。 ・両方の日記を併せて読み直し、二人の問題点や改善点について再考し、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級を二つに分けて、片方の日記だけをそれぞれタブレット上で読ませる。 ・よし子とえり子のうち、共感できる方に付箋を貼らせることで、立場を明確にさせる。 ・話し合いで意見が変わった場合は、適宜を変えて再提出させる。
まとめ (7分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりを書く。 ・自分自身や友だちとの関係をふり返り、すれ違いを生まないうちに、またすれ違いが生まれたときにどうすべきかを考え、できるだけ具体的に書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出箱にふりかえりシートを提出させ、回答共有する。話し合いで考えが変わった児童は、それに触れて書くよう促す。 ・経験から具体的に書いている児童のものは取り上げて褒め、参考にさせる。

1人1台端末を活用した活動の様子



Google フォームのアンケート結果を提示した場面



AI テキストマイニングによってアンケートの結果を分析した場面



ジャムボードの座標軸での立場を明確にしたうえで話し合う場面

児童生徒の反応や変容

・最初のアンケートの様子では、児童はあまり「すれちがい」の体験がないようであった。そのため、教材を読んでも、思ったよりも登場人物に共感する様子が見られなかった。しかし、登場人物の二人に寄り添って考える中で、やはり“相手の気持ちに寄り添うこと”の大切さに気付いてふりかえりを書く児童が多かった。また、想定したより、“自分も約束を守るために、できる限りの努力をすべきだ”という意見が多かった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・授業の導入のアンケートをとる場面で、Google フォームを活用することにより、実態を数値化したり、図式化したりすることができたことは有効であった。
- ・ジャムボードで自分の立場を座標軸に表して話し合わせることが効果的であった。友だちの意見を聞き、自分の立場を移動させながら話し合うことで、それぞれの価値観の揺れ動きが見られた。